

平成26年 網走市議会  
経済建設委員会 会議録  
平成26年12月1日(月曜日)

○日時 平成26年12月1日 午前10時00分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 第11期網走市農業振興計画について
2. 平成26年度除雪計画について
3. その他

○出席委員(6名)

|      |        |
|------|--------|
| 委員長  | 佐々木 玲子 |
| 副委員長 | 小澤 陽平  |
| 委員   | 工藤 英治  |
|      | 栗田 政男  |
|      | 古都 宣裕  |
|      | 山田 庫司郎 |

○欠席委員(0名)

○委員外議員(1名)

|    |        |
|----|--------|
| 議長 | 小田部 善治 |
|----|--------|

○傍聴議員(3名)

|  |       |
|--|-------|
|  | 飯田 敏勝 |
|  | 金兵 智則 |
|  | 松浦 敏司 |

○説明者

|        |       |
|--------|-------|
| 副市長    | 大澤 慶逸 |
| 経済部長   | 今野 哲男 |
| 建設部長   | 石川 裕将 |
| 農政課長   | 川合 正人 |
| 土木管理課長 | 高橋 勉  |

○事務局職員

|        |        |
|--------|--------|
| 事務局 長  | 佐藤 明   |
| 次 長    | 吉田 正史  |
| 総務議事係長 | 岩尾 弘敏  |
| 係      | 菊地 香代子 |
| 係      | 松山 俊   |

午前10時00分開会

○佐々木玲子委員長 おはようございます。

ただいまより経済建設委員会を開催いたします。  
本日の委員会は、第11期網走市農業振興計画と、平成26年度除雪計画についての議件2件でございます。

まず1件目、第11期網走市農業振興計画についてを議題といたします。

これは6月2日開催の当委員会で農政課より説明をいただきまして、会派持ち帰り、時間をとってまた議論をしたいという話だったものですから、本日この計画についてを議題といたしますので、皆さんからそれぞれ御意見等ありましたら。

○山田庫司郎委員 委員長からあったように6月にお示しをいただいて、半年近くになるわけですが、少し意見の交換をさせていただければと思います。

第10期の10年を見据えた計画があったのですが、農業の事情を含めて相当急変しているということで、見直しという国の方向を含めて、今回2014年から18年までの5カ年ということで新たな振興計画が提示をされたわけです。

それでまず一点、網走市農業振興計画の体系ということで6ページ目に記載があるのですが、ここの冒頭に、今少しお話ししたような、農業情勢が非常に変わったということが背景として書かれていますけれども、第10期の10年の振興計画でしたからまだ5年しかたっていないと考えれば、半分過ぎたということになるわけですが、当初の10年を見据えた振興計画が5年たって、これをつくる際にどういう成果、感想が土台にあったのか、もしあれば所見を伺いたいと思うのですが。

○川合正人農政課長 この第11期の網走市農業振興計画をつくるに当たりまして、まず検討委員会をつくりまして意見の交換をしていただきました。

その中で、第10期の網走市農業振興計画が2010年から2013年までの計画となっていたのですが、こちらの進捗状況等をいろいろな角度から検討していきました。

その中で、今後どうするかということで出てきた言葉が、基本目標として人と大地を育む持続的な網走市農業の確立を目指してということで、やはり網走の農業が持続的に発展していくことが必要

でしょうということで、持続的な網走農業ということになっております。

その中でも、担い手を確保していこうということや、それに対しての生産基盤、それは畑、ハードのこともそうですけれども、技術的なところでの生産基盤、体制を整えていこうということもあります。今回の第11期農業振興計画をつくったところがあります。

**○山田庫司郎委員** 理解させていただきたいと思えます。

それで、少し中に入らせていただいて、そんなにたくさん聞くことはありませんけれども、何点かお聞かせをいただいて意見交換したいと思えます。

ダイジェスト版でお話しをさせてもらおうと思うのですが、3ページになりますが、(2)の農業者の交流機会を創出し農業者の技術並びに知識習得を支援するというタイトルがあるのですが、今までも消費者を含めて、農業と違う異業種の方とのいろいろな交流によって農業を理解していただいて、地産地消もそうですし、支援も含めてしていただくことが非常に重要だと思っています。

そういう意味で、改めてまたここに書かれているわけですが、今までも持っていたと思えますが、市民との意見交換なども新たに入ってきたと思うわけですが、具体的には、例えば来年、再来年あたりにこのようなことをしてみたいとか、近々に具体的に何かやるような予定があれば、お話しいただければと思うのですが。

**○川合正人農政課長** 農業者の交流機会を創出するということをございますけれども、まずは担い手をこれから育成していかなければならないということで、今JAが実践しています担い手研修事業に市としても助成をして、担い手の育成に努めているところであります。

今後の市民等の交流ということをございますけれども、現在は青年部と女性部等があるのですが、市長と異業種団体が語り合っているタウンミーティングで話をして、交流をしているというのが現状でありまして、今後具体的にどういうことをしようかということまではまだないのですが、今後青年部、女性部と協議をしていきながら、どういう方向がいいのか協議して進めていきたいと考えています。

**○山田庫司郎委員** タウンミーティングが一つのきっかけになって、そこからいろいろ裾野が広がると

いうことも求めたいと思えます。例えば、消費者協会の方たちと意見交換してみるとか、いろいろな団体の方ともし話ができれば、農業に対してのいろいろな御意見もあつたり、意外とその辺からアドバイスをいただけるようなこともあると思えます。

振興計画の場合、市がつくっていますから、市が中心にかかわることになりますけれども、やはりそれぞれの農業団体を含めて自主的に動いてもらうことが一番いいことなので、市のかかわりというのは難しいところがあると思うのですが、そういう視点も含めて、これから農業というのはどうなるか行く末が少しわからないようなところやいろいろな心配な部分もあるので、消費者が味方してくれることが一番大事なことなので、この視点の拡大を含めてぜひ広めていただきたいと思えます。

それと、ダイジェスト版の4ページですが、(5)の多様な農業経営体を支援する、そこと6番目の新技術の部分があるのですが、今6次産業化という言葉がよく使われていますが、付加価値をつけてどうするのだということが、特に網走も含めてオホーツクの農業に求められているところがあると思うのです。

新製品やいろいろなことを含めて努力をされているのですが、十勝がうまくいっているということもあるかもしれませんが、別に十勝を見習えということではないのですが、こういう意味で6次産業化の問題。それと後ほど5ページにもつながっていくのですが、やはり販路拡大です。どういうふうにしてシェアを、市場を拡大して売ることを考えるかということになると思えますので、この販路拡大についても御意見があればと。

それと、新技術の関係で、この間の経済建設委員会で見察をさせていただいたときに、衛星のGPSを使ったトラクターの話もお聞かせいただいたし、実際トラクターも見てきたのですが、農業の作業が効率よくできる、無駄がなくなるのだとお話もあつたのですが、中継点といいますか、そういうものがある程度力を入れてそういうことに進んできているということもありますし、後継者も含めて、機械化とIT化の新技術の部分で何か新しい見解があるのだったらお聞かせいただきたいと思えます。

**○川合正人農政課長** 今山田委員のおっしゃいまし

た農業経営体を支援していく、また新技術の導入、そして6次産業化を図っていくということもありますけれども、やはり農家の方の所得を増大させていくというのが一番の目標であるということですから、農業の所得を上げるためには農産物の付加価値をつけていくということが今後必要なのかと思います。

6次産業化を目指しているところもありますが、これから網走の農業では商工連携というところでの6次産業化というのがいいのかというふうにも思っています。

その中で、現在は網走に小麦の集出荷施設もつくりまして、今稼働しているところでもありますけれども、小麦に網走だけではなくオホーツクとしての付加価値がつけられないかということも考えながら、今後その辺の事業は進めていきたいというふうにも考えております。

あと、それ以外にもブランド化ということもありますので、JAオホーツク網走では今ナガイモの輸出も進めていますので、日本のパイが少なくなっているところで海外に輸出するという輸出促進ということも考えていかなければならないのかと思います。

また、GPSを導入して美幌町はやっているということですが、この前経済建設委員会で視察も行かせていただきましたけれども、JAオホーツク網走でも今GPSの導入を検討しているということですので、労働力の確保と、農業等の散布も省力化ということもあるので、GPSを使ったこれからの農作業というものに、市としても支援できればいいと考えています。

**○山田庫司郎委員** 今お聞きしまして、新たに進み出したところもあるのかと思いました。

いずれにしても、後継者、担い手を含めて、所得が1,000万円、畑の面積も40ヘクタール、40町が目標ということも後ほどここへ掲げています。本当は耕作面積を守れば一番いいのですが、農家人口が年々どんどん減る中で、同時に耕作面積も減ってくるという状況もデータの中にはあります。そういうことを含めて、新しい技術や、消費者やいろいろな方たちの理解もいただいて。やはり農業がなかったら大変ですから。

そういう意味で網走の大きな基幹産業ですから、この振興計画に基づいて着実に進めていただく、こういうことを思っています。

それで、TPPの関係で、交渉経過が今全く見え

ませんから、私たちも不安と心配をしていますが、重要品目の5品目も含めて交渉はまだ続いているようです。もちろんだうなるかということは見きわめていかなければならないわけですが、できれば今拙速にTPPには乗っからないように私個人は思っていますけれども。ただ一方で、TPPがもし成った場合のことも含めて、付加価値なりブランド化なり海外への輸出も含めた直接販路も農協として考えていかなければならないということもあると思いますので、新たな動き方や意識も持っていかなければと大変かと思えます。

一方で規制改革会議を含めて農協のあり方とか、いろいろなことも問いただされています。農協がいい意味で変わっていけばいろいろな意味でその農業の中心センターになるわけですから、決して悪いことばかりではないと私も思っています。

そういう意味で、きちんと市のかかわりを持ちながら、ぜひこの振興計画に基づいて農業をしっかりと支えていただくことをお願いしたいと思います。

私から以上です。

**○佐々木玲子委員長** そのほかございますか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、この農業振興計画につきましては報告を受けたということで、終わらせていただきます。

---

**○佐々木玲子委員長** 次に2件目ですが、平成26年度除雪計画についてを議題といたします。

**○高橋勉土木管理課長** 平成26年度網走市除雪計画について御説明をいたします。

資料1号をごらんください。

はじめに、の部分でございますが、本年度の除雪計画の策定に当たりまして資料の4ページから6ページに添付しております除雪基準、それから除雪の出動基準をもとに過去の実績等を踏まえ検討し、郊外地区につきましては地域の道路河川愛護会と協議を行いまして、本計画を策定しております。

本計画につきましては、例年と比較し大きな変更点はございませんが、除雪基準及び出動基準におきまして、わかりやすい基準とするための文言整理を行っております。

1ページ、2の除雪目標の部分でございますが、冬期間の交通の確保と市民生活の安定、産業振興を目的に、通勤、通学路の確保、主要幹線道路及び歩

道の早期除雪に努めてまいりたいと考えております。

3の除雪路線以下につきましては、除雪計画資料のほうで御説明をさせていただきます。

3ページをごらんください。1の道路の市道の部分でございますが、認定市道697路線、延長581.6キロのうち652路線、延長420.6キロの除雪を実施します。市道以外の道路につきましては、市街地、郊外地域合わせて168路線、37.9キロの除雪を行います。

ページの中段の2の歩道階段につきましては、市街地、郊外地域合わせて94路線、71.7キロの除雪を行います。また、除雪作業の終了後の滑りどめ対策としまして、融雪剤の散布、微砂利散布を行うとともに、25路線、32カ所に砂箱を設置いたします。

4のロードヒーティングの敷設状況につきましては、市内27路線、54カ所、延長5.4キロとなっております。

雪捨て場でございますが、網走市内に大曲、潮見を合わせて2カ所を確保しております、ブルドーザー2台で雪捨て場の整理を行いたいと考えております。

表の下段7に記載しております除排雪車両体制でございますが、市保有車両20台、借り上げ車両49台、委託車両15台の合計84台で除排雪に当たりたいと考えております。なお、借り上げ車両の事業者は例年同様11事業者となっております。

このほか、例年実施しています市役所玄関前においての市民向け砂袋の無料配布につきましては、昨年同様2万7,000袋を用意したいと考えております。

ページが飛びまして7ページには緊急連絡体制、そして8ページ以降には除雪の路線図を添付しておりますのでごらん願いたいと思います。

最後にですが、除排雪に関する市民への啓発でございます。市のホームページを初め、12月と1月の市広報紙への掲載、除排雪への協力をお願いするチラシを作成し全戸配布を行い、路上駐車防止、車道への雪出し防止、玄関前間口の除雪の協力等と呼びかけることとしております。チラシにつきましては、最後のページに添付してございます。

以上が平成26年度除雪計画の説明でございますが、本年度も市民の御理解と御協力をいただきながら適切な除排雪を心がけてまいりたいと考えております。

以上です。

**○佐々木玲子委員長** 皆さんから質疑ございますか。

**○古都宣裕委員** 最初に雪捨て場についてですけども、大曲と潮見があるということで、例年だと大

曲が一般の方も雪捨てできる場所だと思うのですけれども、潮見に関しても同じような形になるのでしょうか。

**○高橋勉土木管理課長** 大曲、潮見ともに一般の方も当然利用できます。チラシに記載させていただいたのですが、15ページとなっている最後の部分で、市民の皆さんは2カ所とも朝から晩まで常時利用できます。除排雪事業者に対しては時間規制を昨年からさせていただいているところですが、市民の皆さんは24時間、大曲、潮見ともに利用できます。

**○古都宣裕委員** あと、全体的な排雪についてですけども、ここは例年と変更なく年1回の予定なのでしょうか。それとも2回にふえたのでしょうか。

**○高橋勉土木管理課長** 例年排雪につきましては、おおむねで1シーズン1回ということで、こちらについては今年度も1シーズン1回を予定してございます。

**○古都宣裕委員** 前回もいろいろな質問の中でもあったと思うのですけれども、一番大きく問題になっているのが排雪で、そのタイミングによっては、解けてきてからになってしまうとガリガリになって作業効率も悪くなるし、機械の壊れる確率も上がってくるということもあるので、ここはなぜふえなかったのかということ。

**○高橋勉土木管理課長** 昨シーズン後半に排雪がずれてしまった理由としては、1月の下旬まではほとんど雪がなくて排雪をする必要性がない状況で、2月の流氷まつり時期直前から2月に入りまして急に雪が多くなった。幹線道路を初めおおむね流氷まつり前には排雪を一定程度終了しているというのが例年でしたが、昨年場合は流氷まつり前には全くやっていなかった。その後、吹雪、降雪が多くなって、2月の後半から3月にかけての排雪になってしまった。

3月になりますと日中の気温は上がりますので、日中に解けて朝晩には凍ってしまうということで、排雪についても難航したのですが、昨シーズンはそのような形でやりましたが、おおむね流氷まつり前の1月下旬から2月上旬に排雪を終わらせてそのシーズンは終わりということで対応しておりますので、雪の降り方によりましては、例年どおりでいけば昨シーズンのようなことはないのかと考えておまして、それで1シーズンについては1回と判断しております。

**○古都宣裕委員** 天候や状況を見ていかなければい

けない、ものすごく難しいところがあると思うのですけれども、多分そこは経験則に基づいてくると思うのです。役職者の皆さんも職員の皆さんも異動があるものですから、毎年いろいろ、去年こうだったからという経験をせっかく積んできたものを次の人にもきちんと引き継いで、こういうときはとわかるような状態、そういったノウハウとして引き継いでほしいと思います。

去年は少し滞ってしまいましたけれども、市の除排雪等で滞りがなくなるようにやっていってほしいと思います。

以上です。

**○山田庫司郎委員** 今古都委員からもありましたから、重なる部分はやめるにして。

国道、道道、市道の除雪の協議会の会議はもう終えられたと思いますけれども、その中で、例えばここまで道道が来て、ここに市道がかんで、こちらが道道だとしたら、そこは市道だけれども道がやりますと、こういうことを効率化がことしから札幌で実施するような話をこの間少し出ていたような記憶があるのです。

網走市がそこまでということには、路線によると思いますけれども。道路の管理者が1人だったら全部やらなければならないですが、管理者がそれぞれ違うということで、私たちから見ると、こちらをやってずっと移動してこちらに行かなければならない。それならずっとこの業者が全部こちらをやってもいいのではないかと思うようなこともあるのですが、これは行政の仕組みですからやむを得ないところがあると思います。

例えば路線によって網走市がことしこの路線をやってというような話は協議会の中では出てきませんでしたか。

**○高橋勉土木管理課長** 国道、道道、それから市町村道の管理者が連携しながらお互いに効率化の部分で、私で承知しているのはモデル的にスタートさせるというようなことで認識しています。

網走市で国道と道道と市道の関係をどうするかという具体的な話には現在はなっておりませんが、今後開催されます通称除雪会議というようなものの中でそういったものが話題になるのかと私自身も感じておりますし、御指摘のとおり確かに効率的部分を考えると、網走市内にもここは網走市がやって、こちらは国道にやってもらったほうがいいのではないかという路線も私が感じるところでも若干ござい

ます。

今後そのようなお話が会議なりで出た際には、その辺については三者で協議をして、より効率的な除雪になるように今後の方針として考えていきたいと思っております。

**○山田庫司郎委員** いいことはぜひ実現できればいいと思いますから、これから話題に出たら、できるような方向を見出していただけると大変いいことではないかと思います。

それで、毎年出ていてお願いをしていると思いますが、それぞれの管理者があつて除雪をするのですが、交差点や出会いのところ、国道に市道から出るときはこちら側の雪の見通しの関係がいつも出てくるのですが、そこだけ特別によけるとするのは非常に難しいのかもしれませんが、車が危なくないよう安全にということで、会議の中でぜひその辺の意思統一をしていただいて、それぞれの立場で対応していただくようお願いをさせていただきたいと思えます。

それと、市道の委託業者にもたくさん御協力いただいて今除雪をしていただいているわけですから、余りこういうことは言いたくありませんが、運転者の技術の問題なのかもしれませんが、ですから、その個人を責める気は全くありませんけれども、除雪路線によってはこんなに雪を残していいのかというような路線もあつて、後で土木管理課のグレーダーを入れてやらなければならないようなことも生じている状況もありますので、全て一律にきちんとというのは非常に難しいのかもしれませんが、委託業者の皆さんに努力していただくよう、ぜひこの辺も周知徹底していただきたいと思います。

いずれにしても、雪の降らない年はありませんから、網走市は除雪の技術も含めて近隣の管内の中でも非常に優秀だとずっと言われていますから、これから雪が降れば、土木管理課、民間の方のお力も借りて、ぜひ市民のためにもいい除雪の対応をお願いして質問を終わります。

**○佐々木玲子委員長** そのほかございますか。

よろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

それでは、平成26年度除雪計画については以上で終わらせていただきます。

---

**○佐々木玲子委員長** そのほか理事者からござい

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

委員から何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では、以上で経済建設委員会を終了いたします。

午前10時28分閉会

---